



2月号

赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

「あんしんねっと赤目」設立6年目を迎えて

あんしんねっと赤目 代表 大森尚子
例年になく厳しい寒さが続き、コロナ・インフルエンザもなかなか収束する様子が見えない中ではありますが、やがて暖かい春が来ることを胸に、寒さや病気に負けない気力と体力でこの時期を乗り切っていきましょう。

平素は、総合福祉支援事業「あんしんねっと赤目」に対し、格別のご協力を賜りお礼申し上げます。

さて、平成30年6月に名張市から福祉事業としての支援と多大なご協力を賜り設立され、今年の6月で丸5年が経過し6年目を迎える事となります。5年間、利用者の皆様からは喜びの声をたくさん頂きながら、無事故で無事運営することが出来ました事、関係の皆様様に心より感謝致しております。

現在の運営状況と致しましては、利用会員数121名、協力会員数23名、賛助会員21名で、利用数が移動支援1000回、日常生活支援81件となっております。

今後、この「あんしんねっと赤目」の利用会員数はますます増加すると考えられる一方、協力会員は高齢化が進み年々減少すると考えられます。そこで、この総合福祉支援事業を長く続けていくために様々な事業内容の見直しを行っているところです。決定内容につきましては、「あんしんねっと赤目だより」第3号に掲載予定を致しておりますので、利用会員の皆様には昨今の現状を踏まえご理解ご協力を頂きます様お願い致します。また、少しでも時間の許す方は、協力会員でのご協力をお願い致します。なお事務所への連絡は、火・木曜日の午前9～12時でお願いします。☎64-7211

新春凧揚げ大会開催

1/8(日)青少年育成部(富森部長)主催の「子ども凧揚げ大会」を、みんなのゆめ広場で50名余りの参加を頂き開催。12月に手造りした和凧を持参し、子供たちが空高くあげました。北川市長・福田議長・西山教育長も童心に返って、楽しんでおられました。ads ニュースでも、紹介されました。



赤目中学校との交流

赤目市民センター工芸室で、昨年9月開催の1・2年生に引き続き、今年1月赤目中3年生(赤目町内生徒)の絵画展を開催。1月31日(火)には、地域に理解をとコロナ感染対策の換気実験(スモークテスト)も実施されました。



環境部会で看板設置、星川サロン開催

環境部会(宮本部長)で、年末から年明けにかけて地域内にポイ捨て禁止等の立て看板設置。星川集会所で22日(日)10時より、今年初めての1月度「憩いのサロンほしかわ」を開催。マジシャンのヒロさんに、マジックを披露して頂きました。



ヒートショックにご用心!

2月に入りましたがまだまだ寒い日が続きますね。冬に発生しやすい事故の一つである「ヒートショック」について、みなさんご存知でしょうか。

ヒートショックは、暖かい部屋から寒い部屋への移動など、急激な温度の変化により血圧が上下に大きく変動することなどが原因で起こります。

気温が下がる冬場に多く見られ、失神や不整脈のほか、死に至ることもあります。

入浴中の事故死は冬に多く、11月から4月の冬季を中心に年間の約80%が発生しています。浴槽内での溺死者は、年代が上がるにつれて増加しており、特に75歳以上の後期高齢者が増えています。

▼予防のポイント

- ・入浴前に脱衣所や浴室を暖めましょう。
※入浴時にはかけ湯(心臓に遠いところから、足→おなか→胸の順)をしましょう。
 - ・お風呂の温度は41度以下、湯につかる時間は10分までを目安にしましょう。
 - ・浴槽から急に立ち上がらないようにしましょう。
 - ・入浴前後には水分補給をして脱水症状を防ぎましょう。
 - ・食後すぐの入浴や、飲酒後、医薬品服用後の入浴は避けましょう
※体調の悪い時や、睡眠薬等の服用後の入浴は避けましょう。
 - ・入浴の前に同居者に一声掛けて、意識してもらいましょう。
※入浴時の死亡事故を防ぐには、早期発見が重要です。同居者に一声掛けてから入浴するようにしましょう。同居者は、高齢者の入浴開始の時間を覚えておき、「時間が長い」、「音が全くしない」、「突然大きな音がした」など、何か異常を感じたら、ためらわずに声を掛けるようにしましょう。
- できることから取り入れて、ヒートショックを予防して入浴を楽しみましょう。 赤目地区 まちの保健室より ☎63-1381



人権学習会開催

「くらしの中の人権」をテーマに、市役所人権・男女共同参画推進室より鴨志田知子氏を迎えて、22日(日)10時より大会議室で、日常の人権について学びました。偏見と無知から生まれる男女・年齢、慣習など日常当たり前の様に考えていたことにも、差別と格差を生んでいます。参加者20名



赤目地区 民生・児童委員就任

- 丈六 堀内茂・大森一彦 ●相楽 大島美紀(新任)
- 新川 宮本京子・野中康代(新任) ●檀 松田義隆(新任)
- 星川・すみれが丘 永元正江 ●柏原 森嶋秀和(新任)
- 一ノ井 清水とよ子(新任) ●長坂 寺田信子(新任)
- 民生児童主任 夏秋圭永子(新任)(敬称略・順不同)

任期令和7年11月30日まで、よろしくお願い致します。

コピーA4(白黒)5円、(カラー)10円。詳細は、市民センターまで。

皆様の情報をお寄せください。

いただいた情報は、取材を進めて、記事やWebサイトなどで紹介させていただきます。(内容は、リライト・一部加筆訂正致します。)

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター

ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

ご自由にご参加下さい。

2月6日～3月5日までの予定

赤目町の皆さんへ

令和5年1月

赤目まちづくり委員会
健康福祉部・部長 森嶋 秀和

ELP 健康教室のご案内

“あなたの身体 測ってみませんか”

- 骨密度
- インボディ(体脂肪 etc.)
- 握力
- 腹筋
- 前屈

「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高めるために、健康教室を開催します。

加齢とともに体力の衰えと、栄養状態から筋力の低下を招くこともあり、外出が減るなどの結果、介護が必要になる場合もあります。健康的な毎日を過ごすためにも、体力を維持することが大切です。まずは、体力測定から…。

日時 2月15日(水) 午前10時～11時30分
場所 赤目市民センター 大会議室
担当 名張市健福祉子ども部 健康・子育て支援室



※当日は、マスクの着用をお願いいたします。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止または延期となる場合があります。
☆名張ケンコー!マイレージ対象イベントです。

月	火	水	木	金	土	日
2/6	7	8 ふれあいサロン	9	10 組紐づくり SNS活用セミナー	11	12
13	14	15 ELP健康教室	16 サンサンカレー	17	18 一ノ井市民センター 文化祭2/19まで	19
20	21 	22 忍たま広場 ふれあいサロン	23	24	25	26
27	28	3/1	2	3 サークル代表 者会議	4 散策サポーター 研修会	5

<お知らせ>

※2/26(日)に予定していました「ふるさとウォーク in 赤目」は、3/18(土)に延期になりました。詳しくは、チラシをご参照ください。

3・4月の行事予定

- ★3/8(水) ふれあいサロン
- ★3/17(金) 錦生赤目小卒業式
- ★3/18(土) ふるさとウォーク in 赤目
- ★3/22(水) 忍たま広場・ふれあいサロン
- ★3/25(土) 旅のステーション開所
- ★3/26(日) 滝まいり



※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。

しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意お願い致します。

Vol.37 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品などを募集しています。)

名張のお殿様「藤堂家」

今から400年前の話、名張の武将と言えば、藤堂高虎(たかとら)・高吉(たかよし)親子です。父の高虎は、慶長13年(1608年)に伊賀上野藩主・筒井定次の改易に伴い、伊賀国内10万石、並びに伊勢安濃郡・一志郡内10万石、飛び地四国の今治城周辺2万石の計22万石に加増され、津藩主となった。1万石は、ほぼ200~300人の兵力、22万石は今の企業並みの規模。そして、一万石の領地とは、一万石の米が収穫できる面積の土地と領民を意味する。

藤堂高虎は、黒田官兵衛(孝高)、加藤清正と並び、「築城三名人」の一人とされる。多くの築城を担当し、層塔式天守を考案。伊賀上野城など高石垣の技術を始め、石垣上に多間櫓(やぐら)を巡らす築城では、第一人者。また外様大名で、主君を七度も替えながら徳川家康の側近として幕閣に匹敵する実力を持つ、異能の武将でもあった。

名張藤堂家は、藤堂高虎の養子高吉にはじまる。高吉は、織田信長の重臣丹羽長秀の三男で、天正7年(1579)近江佐和山城に生まれ、幼名は仙丸(せんまる)。豊臣秀吉の所望により、弟羽柴秀長の養子と。その後また秀吉の戦略として、高虎に子どもが無かった為、高虎の養子となり、名を高吉(たかよし)と改めた。戦国大名にとって、長男・次男・三男までが後継ぎで、四男以降は、分家して嫡男(ちやくなん)の家来に、または養子に出すか、人質になるのが通例。

高吉は、朝鮮出兵・関が原での活躍に加え、大坂夏の陣では長宗我部盛親隊を相手に、高虎を死地から救い出す。関ヶ原の翌年、慶長6

年(1601)に藤堂家に念願の男児・高次(たかつぐ)が誕生。寛永12年(1635)江戸幕府より伊予と伊勢国内2万石との替地の命がでると、藩主高次(高虎の嫡男、伊勢津藩第2代目、高吉の22歳下)により、高吉は伊勢2万石の内5千石を名張周辺と替地し、翌寛永13年(1636)名張に移封され、名張藤堂家の祖となる。名張藤堂家は代々宮内(くない・宮中)の官職にあり、藤堂宮内家と呼ばれた。

高次は高吉の存在を危険視し、名張移封も高吉に対する冷遇の一環。その後、名張藤堂家と津本家との対立は続いた(名張騒動など)。名張藤堂家の慣習、当主を「殿様」と呼ぶのも禁じられた。第8代藤堂長教(ながなり)が津藩本家から奥方を迎えて以降、改善するが、遠祖である丹羽家色や独立気風も薄れた。名張藩主は第9代の藤堂長徳(ながのり)まで、藤堂氏の通字である「高」ではなく、丹羽氏の「長」を使用、そして第11代高節(たかもち)で明治維新をむかえた。

名張藤堂家・高吉は、家臣や伊予から商人、職人らを従え、名張の高台・旧領主筒井氏の跡地に陣屋(じんや)を構え、今の名張発展の基礎を築き、治水工事にも取組む。高吉は、寛文10年(1670)大往生で92歳の生涯を名張で終えた。墓所は徳運院(平尾)。なお「名張藤堂家邸跡」は、上級武士の屋敷として、生活の場の中奥部分が残り、全国的にも貴重な存在(三重県文化財)。藤堂高吉は、戦国を生き抜き、名家の生まれで才覚に優れたが故に不遇の人生。しかし人望があり忍耐と人間力に優れたお殿様は、名張の誇りと云っても過言ではない。



藤堂高虎像(西蓮寺所蔵)



伊賀上野城



名張藤堂家邸跡



藤堂邸全景



徳運院(平尾)